

TAKE YOUR CHANCE!

～茨の道にも花は咲く～



校訓
自律
誠実
進取
第1号

始業式は放送、交通安全教室は3年生だけ講堂でサテライト。コロナ禍はまだ続くが、予防には気を付けながら、充実した1年を過ごせるよう気持ちを作って行こう。

令和3年4月14日(水)
3学年主任
高橋 主久

学年集会で話したかったこと

いよいよ3年生。高校生活の集大成となる1年の始まりだ。君たちの普段の様子を見てみると、3年生としての自覚が芽生えてきていることが伝わってくる。程度に差はあるかもしれないが。

年度始にあたり、学年主任として君たちに話したいことがいろいろあり、11日(日)の学年集会で存分に伝えようと思っていたのだが、知っての通り健康診断に思いのほか時間がかかり、外部講師を招いた交通安全教室の日程を変えるわけにもいかず、私の話す時間が直接割を食ってしまった。話の半分くらいで時間が来てしまい、続きは学年通信で……と終わってしまったのでその内容を少し書きたい。私の気持ちを伝えるには、直接話すのに比べたら不十分だが仕方ない。集会で話したことも含めて改めて書きたい。

まず3年生として、立派に過ごしてほしいという話をした。勉強&進路達成してみせること、部活動で最上級生として力を発揮し、後輩を導くこと、学校内でも外でも、弘前中央の生徒として普段の立ち居振る舞いに品性を見せてほしいという話。3年目のベテラン中央生なのだから、君たちは、中央生とはこういうものだと思える存在、ということになる。後輩たちはまだまだ自分のことに精いっぱい揺れる存在。君たちが、自分の目標に向かってしっかり努力しつつも、視野を広く学校全体を考えた行動をしているところを見せてやってほしいと思う。2年生はやがて、君たちの背中を追いかけて大人になる。そうして弘中央の伝統が続いてきた。これからの弘中央は、君たちにかかっていると言っておきたい。

2つ目に、3月24日の「合格体験発表会」の話をした。私は体調不良で残念ながら聴けなかったが、いくつかのクラスで「参考になった人、良かったという人!」と挙手させてみると、大半の手が上がった。先輩の話に感銘を受けるということは、君たちも「自分の力で取り組んで苦労して、目標を達成する」ということをやはり自分もやってみたいのだと強く思った。その自分の気持ちにさっそく応えてやってほしい。現れてきたその気持ちを簡単になくさないでくれ。それには、

今すぐ走り出すことだ。

発表会でも話をしてくれた、卒業生のくん。東北大学に一般で合格する快挙を成し遂げた。1年生の時は私も英表の授業をした。その時はすこしはできるな、くらいの生徒だったが、2年生からの学習計画と実施は鬼神のごとく取り組んだようで、凄まじい伸びを見せた。彼の学習法は36HRでは掲示されているし、担任の先生に聞けば見せてもらうことも可能だろう。参考になるはずだから、とっかかりが欲しい者は相談してみてくれ。ただし、集会でも話したが、ただ表面的に他人のマニュアルをなぞっても、大した成果は出ない。もしすべてのことに唯一絶対の正解があるのだとすれば、極端な話だが、例えばプロ野球選手の打撃フォームはみな同じ形になるはず。高校生が使う単語集も1種類でいいことになる。

「賢者は歴史に学ぶ、愚者は経験に学ぶ」。
19世紀のドイツ帝国の政治家ビスマルクの言葉。自分の経験しか信じないようでは効率は非常に悪いから、先人の積み重ねをうまく利用させてもらった方がよい、ということを言いたい格言だ。だから の勉強法を丸ごとまねしなさい、という話ではもちろんない。格言の内容は納得できる話ではあるが、歴史に学ぶだけではダメだと思うのだ。われわれは、歴史に学びながら、自分の経験とミックスしていくべきだ。格言はわかりやすくするために二項対立にしてあるが、これらは対立する概念ではないはず。誰かの必勝法は、その人にとっては最高で、他の人にも役立つ部分があるかもしれないというだけである。君の進路目標、その時点の学力、部活動、通学時間や方法、友達関係、努力の才能……。人とは異なるそれら。彼の学習法は、 が として頑張って編み出した、 のための学習法なのだ。彼も愛用していたターゲットを信じてやっていこう、とか、そうやって自分の勉強法と比べてみて、実現可能かどうかとか、効率的にするにはどうしたらいいとか工夫し、何より走り出してみる。自分でやってみる。人間はみな過去の遺産を利用してきたのだからまねをすることはいいことで、そのうえで自分だけの勉強法を作る。それはもはやオリジナルだ。それで成果が出せれば、これからの人生が大いに豊かになるだろう。(裏へ)

この辺までが学年集会で話せたことだと思う。
続きを書く。

マズローという心理学者がアメリカにいた。彼は人間の欲求は5段階に分かれているという「欲求段階説」を提唱した。低次の欲求が満たされれば、人間は次の欲求を満たしたくなる、というものだ。学説だから、絶対にすべての人間に当てはまるというものではないだろうが、概ね当てはまるだろうから、世間で広く認知されている。

最も低次の欲求、「生理的欲求」。物を食べたい、眠りたい、トイレに行きたい、そうした人間の根源的な欲求のことだ。普通の動物はここまでで終わりのことが多いようだ。

2つ目は、「安全の欲求」。身体的な安全、経済的な安定、健康など、落ち着いて暮らしていくために必要な部分だ。

3つ目、「社会的欲求」。安定が得られたら次はこれ。家族、組織などに属していたいという気持ち。友達が欲しいとか結婚したいとかそういう気持ち。

4つ目は「承認の欲求」。これは低次と高次の2つあり、低次の方は言葉から想像できる通り、他者から認められたい、尊敬されたい、褒められたいという気持ち。幼稚に聞こえるかもしれないが、これも大事な欲求だと思う。自分で満足していればいい、などと言ってみても、その前に他者に認められたい気持ちがあるようである。次の段階である高次の承認欲求が、自分の中での達成感。自分で自分を認められるかが焦点となる。このあたりから、レベルが高校生になってくる気がする。

最後の5つ目が、「自己実現の欲求」。自分にしかできないことがしたい、自分らしく生きたいという気持ち。「自分探し」といった言葉に結び付けられ軽んじられることもあるが、本質はそうではない。社会の中の自分という存在を肯定する欲求が満たされた上に位置する高邁なもの。世間でいう「個性」に当たるのが、「高次承認欲求」と、この「自己実現の欲求」だと思う。

もう少し言うと、後年のマズローは6つ目も付け加えている。「自己超越の欲求」。エゴを超え、「社会をよくしたい」「貧困をなくしたい」といった、SDGsの理念に近いようなものだ。

総探に重きを置いてここまで君たちと勉強してきたが、ただ人に迷惑を掛けずに生きていくというところにとどまらず、精神的に充実して生きていける人であってほしいという気持ちがわれわれ学年スタッフの根底にある。

話は勉強に戻るが、自ら目標を持ち、計画を立て、努力をして成果を出す。受験の本質だと思う。学校の勉強は決して、大学に入るための、苦しいだけのただの手段ではない。ただ生活しているだけでは身につけにくい知識や考え方を得る、友人と協力して何かをなす、そして自己実現の土台を作る。学校教育のエッセンスが含まれたものだと、私は考えている。

いつも同じことを言うが、弘中央に来ている君たちは、社会においてリーダーになるべき存在だ。大学・専門学校、その先の就職先やその他のコミュニティで、能力のある君たちは必ずや人に頼られたり、先頭に立って何かを切り開いていく立場になる。その時に、もちろん部活や授業を始めとした高校生活全般も助けになるのだが、特に、今までやってきた探究活動の考え方と、受験勉強の過程が君たちに自信と力を与えてくれる。あとは経験と、広い視野を持つことでさらに成熟していくであろう。

私たちは、君たちにもっともっと成長してほしい。いい人生を生きていてほしい。本当にそう思っている。これくらいでいい、と小さくまとまるにはまだ早い。むしろ、まとまらなくていい。3年生を、挑戦と自律の1年間に、旅立ちの準備の1年間にしてくれ。